

【前野保全・教育推進課長】

定刻となりましたので、令和7年度第1回市民動物園会議の開催に当たりまして、事務局より連絡事項を申し上げます。

私、保全教育推進課長の前野と申します。4月から飼育展示・診療担当課長から異動となりました。

本日、滝口委員が少し遅れてオンラインで参加予定です。

また、相原委員、佐々木委員が所用にてご欠席と連絡をいただいております。

まず初めに、園長の白水より開会にあたり、ご挨拶申し上げます。

【白水園長】

円山動物園園長の白水でございます。

皆様本日は大変ご多忙の中、雨も降り出し足元の悪い中、市民動物園会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

この4月から当職に着任いたしました。円山動物園にはこれまで飼育担当、獣医としても在籍しておりまして、動物診療担当課長として平成30年以来、約7年ぶりの動物園となっております。

この7年間に現在の運営方針であるビジョン2050ができ、昨年にはビジョンに基づく第2次実施計画が策定されておりますが、お力添えをいただきながら、動物福祉の向上や生物多様性・保全を中心とした取り組みをしっかりと進めてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年ですけれども、既に皆さん入口で大変ご迷惑をおかけいたしました。この動物園センターが今日を最後に、明日から老朽化のための改修工事に入ります。そのため、男子トイレが使えなかったり、机もギリギリの数だったりという状況ですけれども、来年6月までかなり長い工事期間中ですが、私どもの事務室は向かいの動物科学館の方に既に移っておりまして、動物園センター、科学館のトイレや休憩スペースなどがご利用いただけないほか、これまでイベントなどで使用しておりました動物園センターの情報ホールや動物科学館のホールなども使えない状態になっておりまして、イベントや講習会、園内教室などの開催ができなくなるなど、来園者の皆様にご不便をおかけすることとなります。

来園者の方々へのお知らせの徹底などにより、影響を最小限にしていまいりたいと考えておりますので、何卒ご理解いただければと思います。

本日の議題ですが、次第のとおり、当園の令和7年度予算の概要、今年度の主な取り組みなど4点を予定しております。

皆様には幅広い観点からの忌憚のないご意見をお願い申し上げまして、私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【前野保全・教育推進課長】

それではまずお手元の資料の確認をしたいと思います。次第1枚片面、資料1委員名簿片面、資料2予算概要両面、資料3重点取組分野の取組片面、資料4ステップアップ制度両面と参考で片面、資料5転入等の動物について片面となっておりますが、お手元にお揃いでしょうか？

それでは以降の進行につきまして吉中議長、よろしくお願いします。

【吉中議長】

おはようございます。酪農学園大学の吉中と申します。よろしくお願いします。

本日は司会進行ということで務めさせていただきます。

本年第1回の市民動物園会議です。ぜひ、今おっしゃったとおり、忌憚のないご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次第見ていただいております。5つ用意されておりますので、順次進めていきたいと思います。

まず一つ目自己紹介ということで、動物園の方で異動があったと聞いておりますので、園長さんもお挨拶いただきましたけれども、簡単にご紹介いただければと思います。

【木田経営管理課長】

経営管理課長の木田と申します。今年で2年目になります。どうぞよろしくお願いいたします。

【石橋飼育展示・診療担当課長】

飼育展示診療担当課長の石橋と申します。

以前、飼育展示二担当係長として長いことおりまして、4年ぶりに動物園に戻る事となりました。よろしくお願いいたします。

【伊藤経営係長】

経営係長の伊藤でございます。2年目になります、よろしくお願いいたします。

【石田推進係長】

推進係長の石田と申します。動物園会議の事務局もさせていただいております。よろしくお願いいたします。

【佐竹保全・教育担当係長】

保全・教育担当係長の佐竹です。2年目になります。よろしくお願いいたします。

【林飼育展示三担当係長】

飼育展示三担当係長の林です。よろしくお願いいたします。

【五島飼育展示二担当係長】

飼育展示二担当係長の五島と申します。3年前まで動物診療の係員をやっておりました。このたび、3年ぶりに戻ってまいりましたので、よろしくお願いいたします。

【朝倉飼育展示一担当係長】

飼育展示一担当係長の朝倉と申します。よろしくお願いいたします。

【伊藤動物診療担当係長】

動物診療担当係長の伊藤と申します。よろしくお願いいたします。

【吉中議長】

どうもありがとうございます。よろしくお願いいたします。

※滝口委員、入室

滝口委員どうぞよろしくお願いいたします。

【滝口委員】

遅くなりました、申し訳ございません。よろしくお願いいたします。

【吉中議長】

今、動物園側に自己紹介いただいたところです。これから議事進めてまいります。よろしくお願いいたします。

それでは、2つ目の令和7年度円山動物園予算概要についてということで、事務局からご説明をお願いします。

【伊藤経営係長】

資料2について、経営係の伊藤から説明させていただきます。

右上に資料2とある令和7年度円山動物園予算概要についてという資料の方をご覧ください。

毎年この時期にご報告させていただいておりますが、今回の予算の報告ということで、令和6年度予算と今年度の令和7年度予算の対比で掲載させていただいております。

まず括弧1の歳入の方ですけれども、令和7年度予算が5億3400万円余りということで令和6年度予算が5億4300万円余りでしたので930万円ほど減額という予算になっております。主な理由としましては入園料になりまして、入園料が今回4億1700万円余りになっていきますが、昨年度は4億5200万円余りということで、3500万円ほどの減額を見込んでおります。

右側の備考のところですが、入園者数の方をご覧くださいんですけども、令和7年度、現時点で一旦90万人と見込んでおります。令和6年度は102万人という数字を見込んでおりまして、102万人を見込むと、この4億5200万円という数字を見込んでおりました。まだ決算見込みの段階ですが、実績としましては、昨年度は82万人でした。これを金額に換算すると3億6500万円ほどでございました。令和6年度の見込みの102万人というのが、コロナ禍前の令和元年や平成30年が100万人ほどいってまして、平成30年はホッキョクグマ館ができたり、令和元年はゾウ舎ができたということで、その後、コロナ禍前へということでそこまでの数字を見込んで一応令和6年度予算の方は102万人ということで見込んでいたんですが、実績が82万人だったということになります。

そのため、令和7年度は90万人を見込みとしてとしています。

今年度の入園者数ですが、動物園としては、一番来園数が多いゴールデンウィークが終わりましたので、ゴールデンウィークの入園者数を簡単に報告させていただきますと、前年度比でいきますと残念ながら80%程度のお客様の入りになっておりまして、今年のゴールデンウィーク前半は雨が多く、このような入園者数になっております。少ない日だと4月29日で695人しか入らず、一番賑わう日だと1万人以上が入るということもありました。

一方で、昨年度は多い日で9千何百人という日はあったんですけども、1万人いった日はなかったもので、今後天候・気候次第というところもあるかと思えます。

続いて、歳出に参ります。歳出の合計としては、令和7年度予算で10億1400万円余り、令和6年度当初予算が10億3400万円余りということで、2500万円ほど減額で見込んでおり、個別に見ていきますと動物園運営管理費、動物園整備費と若干太字になっているところが大きく二つの事業に分かれています。動物園運営管理費の方が8億9400万円余りで昨年度が9億1300万円余りということでこちらが2400万円ほど減っておりまして、こちらの事業費の減がトータルの方にも影響しているということになっております。

動物園運営管理費という事業の中の動物園経営費が2200万円減となりまして、動物園経営費ですけれども、日々運営していくための経費、光熱費や餌代にかかる予算になります。こちらが、7億4600万円余り、昨年度が7億2300万円余りということで2200万円減っていることが予算が減っている原因になっているんですけれども、一方で、光熱水費の減ということで令和6年度予算を作る際に世の中、水道光熱費がいろいろ上がっていた時期だったんですよね。その時に令和6年度はかなり上がる見込みで予算を多めに積んだんですけれども、結果的にはそこまで光熱水費が上がらなかったということがあり、令和7年度予算につきましては6年度の使った光熱費の見込みに合わせまして200万円ほど減らしております。

他の事業についても簡単に説明いたしますと、動物園教育推進費は動物園教育のためのセミナーや研修、ワークショップを開くための予算となっており、こちらが250万円ということで昨年度とほぼ同じ金額になっております。

続きまして、円山動物園おもてなし費ですが、こちらは来園者の利便性向上のための費用でWi-Fiの関係ですとか、あとは外国からの観光客向けの多言語のリーフレットを作っている費用となっておりまして、こちらが今年500万円、例年より220万円ほど増えております。理由としては、今年度中に円山動物園でオンラインチケットをスマホとかで買っていただいて、それを提示すると動物園に入園できるような仕組みを検討しているんですけれども、今年度中に導入予定をしております、その関係ということで220万円程度増となっております。

続きまして、ホッキョクグマ保全推進費の方ですけれども、こちらの方は当園でのホッキョクグマの繁殖や、国内のホッキョクグマの個体の維持のため、海外からホッキョクグマを導入するための費用というふうに考えており、こちらが900万円ということで昨年と変わりありません。

続いて、アジアゾウ飼育技術向上・繁殖推進費ですけれども、こちらはゾウの飼育に要する技術知識の習得のための研修の費用などとなっております。320万円ということで、昨年度と変わりありません。

続きまして、北海道ゾーン整備費ですが、こちらは老朽化した猛禽舎の改築に合わせまして、北海道産の動物を展示する施設の検討、共同研究をするための費用となっております。こちらが180万円を予定しております。

続きまして、動物園福祉向上推進費ですけれども、こちらは動物の福祉のためということで、例えば動物病院の機能強化のための費用ですとか、動物園の獣舎の改修ですとか、そういった関係で1900万円を計上させていただいております。こちらは後ほど出てきますが、動物園応援基金を原資としている事業になります。

続きまして、野生動物復元事業費の中の北海道の野生動物保全費ですけれども、こちら200万円となっております。こちらの事業は、北海道に生息する希少な野生動物の保全のための研究や講演会にかかる費用予算となっております。昨年は830万ということで、他からの補助金が入ることをあてにして、多く予算計上していたんですが、今年は200万円で計上

しております。

続きまして、動物園応援基金造成費ですけれども、こちらは市民の方からの寄附やふるさと納税などを含めた寄附を基金に積み立てるための支出ということで1億4400万円を積み立てるということで計上しました。

それから、さっぽろの動物園事業推進費の中の札幌市認定動物園推進費ということで、こちらは200万円を計上しております。認定動物園として認定された札幌市内の施設に対して助成金を出したり、研修を行ったりするための費用となっております。こちらも200万円ですが、先ほどの円山動物園福祉向上推進費と同じく、動物園応援基金を原資とした事業となっております。

それから、動物園整備費ですけれども、こちらの合計1億2000万円余りで、昨年度が1億2100万円余りだったので、ほぼ同額ということで計上させていただいております。そして、園内施設維持管理費というのが動物のための獣舎等を改修する費用ですが、今年度が1億2000万円で昨年度から大幅に増えているんですけれども、動物園プラザの大規模改修がありまして、その関係で事務室の移転等にかかる経費が入っております。

続きまして、最後に裏面の参考ということで、こちらの方が令和6年度の決算見込みということで記載しておりますけれども、1億1000万円ほど積み立てさせていただき、一方で1400万円ほど取り崩しております。令和6年度末の時点で3億2000万円ほどの基金残高となっております。

令和7年度予算としましては、1億4400万円積み立てることを予定しておりまして、一方で2100万円ほどの取り崩しを予定し、年度末としては4億4300万円余りの基金残高となっております。以上でございます。

【吉中議長】

どうもありがとうございました。

細かい数字もたくさん出てきておりますけれども、数字それから中身についてご質問・ご意見をお願いいたします。

【細矢委員】

2点ほど質問したいんですけども、この入園料のところの入園者数について、先ほどのご説明だと、令和6年度の実績見込みが102万人で、ゴールデンウィークにかなり雨が多く、入園者数が82万人に落ちてしまったと、それで令和7年度は90万人にしますというご説明ですけれども、こんなこと言ったらちょっと失礼ですけど、入園者数が天気頼みのような説明に聞こえてしまったんですけれども、入園者数の見込みの設定を90万人にしました。数字だけ見ちゃうと、前年度実績から1割程度アップしておうかなというふうに見えるんですけども、そこをご説明いただけますでしょうか。

例えば、今回8万人増やした理由が雨が多くて入園者数が伸びなかった。そのため、雨でも楽しめるようなイベントを企画するなど、そういった考えなどがあればお聞きしたいです。

さらに、歳出について、海外からホッキョクグマを導入するという話でしたが、日本にいるホッキョクグマが同じ系統になってきているので、違う血を入れて保全を拡大していきたいということなのかなと思うのですが、そのあたりいかがでしょうか。

【伊藤経営係長】

まず入園者数の考え方ですけれども、令和6年度の102万人はコロナ直前の一番人数が多いところまで増えるだろうという見込みでして、令和7年度の見込率としては、単純に10%増やしたとことではなく、単純にその当時のピークに合わせたというよりは、コロナの時期を除いて、5年平均などで見込んだ数字となっております。

ただ、天気次第でのイベントなどは企画していないのですが、動物園としては引き続き、SNSなどを利用して情報発信を行いながら、来園者に関心をもっていて来園につなげていきたいと考えております。

【石橋飼育展示・診療担当課長】

ホッキョクグマについてはご指摘のとおり、国内の血統、個体群の血統というのはかなりひっ迫しております。当園では繁殖がうまくいって、ララの子どもたちが国内に散らばっているという状態です。次の世代と考えたときに今国内にいる個体とは全く違う血筋の個体、可能であればより野生に近い遺伝的なところが高い個体を入手していくことが、今後の日本のホッキョクグマを維持していくために必要で、その調査等のために計上させていただいております。

【細矢委員】

今のホッキョクグマの話ですが、野生に近い個体が減少していることは認識しているのですが、導入可能なのでしょうか。

【石橋飼育展示・診療担当課長】

野生に近いとお話しましたが、野生の個体を捕まえてということではございません。ホッキョクグマの生息地などでは、お母さんが死んでしまって保護されるような孤児の個体をいわゆる創始個体といって、個体群のもととなる血筋になっていくんですが、そういった血筋のより上流に近い個体が理想というのがあります。

【吉中議長】

他いかがでしょう。

今年度の歳出いろいろ事業が予定されているものが、この後の議題の今年度の重点的に取り組まれるところでもご説明いただけますので、そこでまたお聞きいただければと思います。

【白水園長】

私の方から一つご報告をさせていただきます。

先週のちょうど火曜日に報道の関係で出ているのでご承知おきの方もいらっしゃると思いますが、園内に売店が7売店ございますが、電気代は円山動物園が電力会社に一括で支払い、各売店さんが使っている電気や自動販売機に使っている電気料は、動物園の方で検針をして、後から請求するという形にしておりました。これが令和3年7月から三つのメーターで読み間違いがあり、桁を1桁抜かして読み間違いということが続いておりまして、結果、動物園に入るべきお金が入らなかったという状態で、3売店が対象になりますが、これらに対して今まで過小請求だったものを、正しい金額でお支払いいただけるようお願いをしているところです。

ただ、令和5年までは円山動物園の職員が直接見ておりましたので、その部分については正しい数字を証明できるものがないので、売店さんには令和5年、6年の2年間の電気代の過小請求分をお願いしております。この2年間で大体120万円ぐらいということで、これは令和7年度の予算には入っていないんですけれども、結果としては、その他のところに歳入として入ってくることになります。この件は売店さんが悪いわけではなく、職員のミスと監督者がチェックできなかったところが問題でございますので、その部分は改めて間違いのないようにチェックできる体制をとっていきます。申し訳ございませんでした。

【吉中議長】

それでは次の議題に移りたいと思います。

続いて、今の予算と関係しますけれども、ビジョン2050第2次実施計画の令和7年度を取組についてということで、こちらまず事務局からご説明をお願いいたします。

【石田推進係長】

資料3の内容にそってご説明させていただきます。まず1つ目の動物福祉評価についてです。令和10年度までに改善が必要、改善の余地があると評価された項目の割合を、全項目の5%以下にするという目標でございます。毎年、動物福祉評価を実施しまして、改善が必要とされたものを改善していくという項目になりますので、単年度ごとの数値や目標は設定しておりません。

なお、昨年度実施いたしました令和5年度の動物福祉評価につきましては、今年1月の会議で結果報告をさせていただいておりますが、全項目のうち改善が必要、改善の余地があると評価されたものが34%という結果になっております。動物福祉評価は令和5年度から行っておりまして、令和5年度には令和4年度の評価を実施しておりますが、結果等を踏まえまして、予算概要で説明がありました、歳出の円山動物園福祉向上推進費では令和6年度にエゾキウサギの獣舎改修を行いました。

令和4年度の動物福祉評価の際に獣舎に対して指摘いただいたものについて、令和6年度に改善させていただいたというものになります。こういった形で、動物福祉評価については施設面の改善だけではありませんが、結果を受けて、施設改修が必要なもので可能なものは改善させていただく、ソフト面も必要なものは対応し令和10年度までに全項目の5%以下にしたいということになります。

続いて、資料3に戻っていただきまして、保全分野についてです。令和10年度までに放鳥・モニタリングするオオワシの累計数を5羽にするという数値目標です。昨年度は、令和7年度の放鳥を目指しまして、放鳥地の地域の方など関係者の合意形成を進めることとしておりましたけれども、オオワシの放鳥にあたっては発信機の装着や追跡手法の検証といった放鳥に伴う技術的な懸念を解消する必要があることから、今年度は放鳥に先立ち、こうした懸念解消のための科学的知見の集積に取り組んでまいりたいと考えております。また、放鳥地などの関係者の方々との合意形成にも引き続き取り組んでいきたいと考えております。

続いて、保全分野で2点目の令和10年度までに認定動物園等への研修会を年2回実施するという目標についてでございます。こちらは札幌市と市内の動物園・水族館などと連携して、生物多様性保全の活動を底上げしていこうという、さっぽろの動物園ステップアップ制度における取組になりますけれども、研修会は認定動物園に対して行うこととしているところ、現時点で認定となった施設がないことから、令和6年度は研修の実施はなかったということに

なります。一方で、昨年3月には札幌市豊平川さけ科学館が認定動物園の前段階である準認定施設に登録となっております。このことから昨年度は、豊平川さけ科学館と本市の生物多様性保全の担当課で保全活動に関する情報共有や連携を目的とした保全活動連携協議会、これは認定動物園との間で行うものなので、その準備会を開催したところでございます。

また、この後、資料4の方でご報告させていただきますが、今年の3月にはAOAO SAPPOROも準認定施設に登録となっております。そうしたことから、今年度におきましても、昨年と同様に保全活動連携協議会の準備会を通じまして、AOAO SAPPOROも含めて保全活動の連携や情報共有に取り組んでまいりたいと考えております。

また、準認定施設への申請の意向はお示しいただいているものの、まだ申請をしていない施設もございまして、そういった施設に対して登録に向けた働きかけを行う予定でございます。

続きまして、教育分野です。園内イベントへの参加を通じた生き物と人との関わりの大切さを理解した人の割合を令和10年度までに100%にするという目標についてですが、昨年度の目標と同じ取組となりまして、子どもの一日飼育係やZOOナイトツアーなどを通して、生き物との関わりの大切さの理解を進めてもらおうと考えております。

次に、調査研究分野のホームページ掲載の調査研究報告書等の閲覧回数を令和10年度までに毎年増加させるという目標についてです。昨年度は、研究報告書を掲載するホームページを新たに作成し、適宜更新するという目標を設定しておりました。昨年度におきましては、既存の研究ページを調査研究のページに更新いたしまして、昨年12月に糖尿病のクロザルの症例に関する論文を掲載しておりますけれども、今年度も論文や報告書などの更新を適宜行うことによりまして、閲覧回数の増加を目指していきたいと考えております。

続きまして、リ・クリエーションの分野についてです。まず1つ目の円山動物園を他の人にも勧めたいと答えた人の割合を、令和10年度までに75%にするという目標についてです。来園者に円山動物園の魅力を感じてもらうことで、他の人へも円山動物園を勧めてもらいたいということで、昨年度同様に円山ZOOガイドや各種教育プログラムを通して、他の人に勧めてもらえるような魅力を伝えてまいりたいと考えています。なお、毎月100名の来園者の方に回答いただいているアンケートでは、昨年度は97%の方から他の人にも勧めたいと回答いただいております。

次に、リ・クリエーションの2点目、円山動物園にまた来たいと答えた方の割合を令和10年度までに79%にするという目標についてです。こちらも取組は昨年度と同様で、観覧環境の充実を図ることで、また来たいと思われるようにしたいと考えております。具体的には、年2回の休園週間を利用して園内掲示物の見直しを行い、情報が古くなってきているものや、色が薄れてきているものなどの更新を進めるほか、来園者のご意見に対して速やかな改善・対応を図ることとしております。こちらの数値目標につきましても、来園者アンケートでは昨年度平均で98%の方にまた行きたいと回答いただいているところです。リ・クリエーションの分野では既に両方の取組について令和10年度までの数値目標を達成しているところではあります。引き続き高い水準を維持できるように努めていきたいと考えております。

続きまして、基盤整備の分野の持続可能な運営手法の導入検討についてです。こちらは数値目標ということではなく、持続可能な運営手法の導入を検討するという目標になりますが、昨年度は他の動物園の事例調査を行っております。今年度はその調査結果を踏まえまして、持続可能な動物園運営の在り方を検討したいと考えております。

次に施設整備について、令和4年度末で169ヶ所あった園内の修繕必要件数を令和10年

度までに73か所にするという目標についてです。園内施設はどこも老朽化が進んでおりまして、新しく修繕が必要な箇所が次々と発生してきている状況ではありますが、そうした中にあっても、優先順位や適切な修繕方法等を決めながら進めることで、令和10年度までに目標達成ができるように取り組んでいきたいと考えております。なお、令和6年度末時点で修繕が必要な場所は117ヶ所まで減少しているところでございます。

続きまして、施設保全計画の策定についてです。施設保全計画の策定には、外壁やポンプなどの施設や設備の劣化調査が前段として必要となりまして、そのために、昨年度は劣化調査の実施を予定しておりましたが、入札不調が続き調査ができていない状況となっております。今年度も改めて調査業務を先の4月発注としておりましたが、再度不調になっています。改めて仕様書の内容を検討し、発注に向けて進めてまいりたいと考えております。

最後の目標が北海道ゾーン基本方針策定に向けた調査研究の実施についてでございます。こちらにつきましては先ほどの予算概要の方にもありました、北海道ゾーン整備費に基本方針策定に係る予算が計上されているということになります。昨年度と今年度の当初計画上は、それぞれ100万円を計上していました。そして、昨年度と今年度の2か年で基本方針を策定するというものにしておりましたが、昨年度につきましては園内職員での検討。具体的には北海道ゾーンのコンセプトや展示手法などを園内職員でしっかりと検討するというところを行いました。そのため、昨年度予定しておりました大学への調査研究の委託業務につきましては、そうした検討結果を踏まえて今年度に発注するというところで、昨年度計上しておりました80万円を繰り越しております。そのため、北海道ゾーン整備費につきましては今年度180万円となっております。今年度におきましては、今申し上げましたとおり、昨年の検討結果を踏まえまして、大学と共に調査研究を行い、それをもとに基本方針を策定してまいりたいと考えております。

【吉中議長】

ありがとうございます。それでは、どこからでも構いませんのでご意見をお願いいたします。

【細矢委員】

教育分野について聞きたいんですけども、人との関わりを大切だと感じた人は100%目標ということで、それはすごくいいことだと思うんですけど、その前段のアクションのところちょっとお聞きしたいんですが、園内イベントとして子どもの1日飼育係や円山ZOOナイトツアーが例示されておりますが、これは応募としてどのような形で広報されているのか、例えば1日飼育係に応募された方で何人ぐらいいたのか。それから外れた方に対して何かフォローされていることがあるのか。そのあたりについてお聞かせいただけますでしょうか。

【佐竹保全・教育担当係長】

こちらアンケートの結果ですが、昨年度実施した1日飼育係やナイトツアーその他も含めて参加者に対してアンケートをとっておりまして、大切さを理解したかどうかということで5段階の評価をつけていただいて、全て集計した結果がこの92.9%になっています。園内イベントの申し込みに関する広報については、動物園のホームページの方で募集をかけております。ホームページの方から応募フォーム、もしくは直接連絡いただくこととなっております。ま

た、子どもの1日飼育係では、参加したい小学生から意気込みみたいなものを書いていただくことになるので、直接送付いただき、それを集計しまして、参加人数が多いため抽選という形で参加者を選ばせていただいております。抽選で当選した方には当選案内を送付し、落選した方にはまたの機会によろしく願いますという旨通知を送付していますが、その後のフォローアップはございません。

【細矢委員】

抽選で落選した方は意気込みなどがあったわけで、動物園に愛情があると思います。そのような方に期待に沿えないと伝えると反感を買ってしまうように思いました。例えば、飼育係の仕事内容が書かれた資料などがあってもいいのかなと個人的に思いました。

【吉中議長】

ありがとうございます。ぜひ、何かご検討いただければと思います。

【有坂委員】

教育部門か保全部門か適切なところがわかりませんが、札幌市で起きている環境問題についてどの程度円山動物園で発信されているのか。というのも先日、篠路福移湿原という札幌市内の唯一の高層湿原がほぼ埋め立てられてしまいました。円山動物園は博物館という位置づけにあるので、身近な課題を学び行動に移せるきっかけとなるような場所であってほしいと思っています。札幌市内にも貴重な自然が残っているということを動物園だからこそ発信していくべきだと思っていて、オオワシの保全や道内の動物のことを積極的に取り組んでいることは重々理解しているが、もう少し身近な札幌の生物、環境が直面している課題、特に湿原・湿地帯は貴重な場所なので開発の歴史や貴重さ、生物の魅力、課題や取組を発信できたらいいと思っています。篠路福移湿原については、高校生らが30年近く研究しているところで、若い人たちが取り組んでいることを動物園でも盛り上げられるとよいのではと思っています。この件について考えていること、もしくは考える余地があるのかということをお聞かせいただきたいです。

【前野保全・教育推進課長】

貴重なご意見ありがとうございます。市内にも素晴らしい自然が多々あると思っており、都市化に伴い、いろいろな問題が起きていることも事実です。我々としては、ZOOガイドや環境教育のイベントを通して、園内の皆様にお伝えしているところですが、調べ切れていないところも多々ありますので、情報を調べて、ガイドに取り入れるなどの仕掛けをしていきたいと思っています。これから検討していくということになります。

【白水園長】

動物園の森を環境省の自然共生サイトに登録申請しているところです。ニホンザリガニに関しても以前から取り組んでおりますが、そういったところを通じて市内各所とのコラボや発信をしていきたいです。また、ヒグマに関しても今までも発信をしてきていますが、環境共生課が酪農学園大学等とのコラボの情報を持っているので、環境共生課の勉強会に職員を出席させるなどしてガイドに生かせるように努めてまいります。篠路福移湿原もありますが、円山動物園は円山という自然を抱えておりますので、自然共生サイトに登録されれば、そこを中

心に広げていければと考えております。

【有坂委員】

共生サイトに登録されると北海道ゾーンに身近な自然環境の課題や取組に関する展示や紹介なども考えられるのでしょうか。

【白水園長】

本市のHPに共生サイトを掲載して紹介したり、または、本市が共生サイトにどう登録していったかを示すことで、市内で取組が増えるなどあるかと思います。

【細矢委員】

円山川の話になりましたが、下水道河川局で先日サクシュ琴似川巡りマップというものを作り、その前は創成川・鴨々川めぐりマップというのを作ったり、川にまつわることをマップにしたりしているが、円山川で作ろうとしたり考えているのでしょうか。

【白水園長】

特にそのようなことは聞いておりません。

【吉中議長】

その他いかがでしょうか。今いただいた意見を参考にさせていただき、今年度取り組んでいただければと思います。

それでは、次の議題に移りたいと思います。さっぽろの動物園ステップアップ制度における準認定施設の登録についてということで、事務局からお願いいたします。

【石田推進係長】

さっぽろの動物園ステップアップ制度につきまして、資料4に沿ってご説明いたします。

先の3月5日にAOAO SAPPOROを準認定施設として登録いたしましたので、報告いたします。今年1月の会議において審査中とお伝えしていたところですが、2月に認定動物園支援事業部会の委員の皆様と現地審査のうえ、登録要件を満たしているということで登録させていただきました。今後の支援・連携ですが、準認定施設へは札幌市から広報支援をさせていただくこととしております。当園のホームページで施設名称や所在地を掲載しております。また、当園ホームページの一番下にバナー広告枠がありますが、そちらでも掲載させていただいております。その他の支援・連携ですが、先ほどの第2次実施計画の取組の中で説明させていただきましたが、昨年度に引き続き、当園と準認定施設、そして本市の生物多様性担当部署を構成員とする保全活動連携協議会の準備会を開催させていただき、保全に関する情報共有・意見交換を行いたいと考えております。なお、登録にあたっては、市民動物園会議から答申をいただいております。その中で助言事項をいくつかいただいております。その一つが、保全活動について積極的にホームページで公表すべきということで、保全活動についてはAOAO SAPPOROのホームページに掲載しておりますけれども、先日もAOAO SAPPOROと標茶町で連携しているキタサンショウウオの保全活動についてマスコミ報道があったところですが、そうした内容についてもホームページで積極的に発信をという助言をいただいております。このことについて、AOAO SAPPOROからは、館内のモニターへの掲載

準備をしており、その後、ホームページへの掲載も予定していると聞いているところです。また、先ほどの標茶町とのキタサンショウウオの保全活動について、委員の皆様から遺伝的な偏りが出ないように地域の専門家からの意見を聞き、慎重に進めてみてはいかがかというご意見、助言もいただいております。この点につきましても、キタサンショウウオは標茶町の天然記念物になっているということで、道庁の文化財専門委員会が開催されまして、そこで採集や展示についての検討をいただいている。そして今後の調査研究についても標茶町と協働して行うということで、現地の専門家の方々から、ご意見をいただきながら標茶町と連携していきたいとAOAOSAPPOROから報告を受けております。AOAOSAPPOROの準認定施設についてのご報告は以上となります。

【吉中議長】

どうもありがとうございます。

それではみなさん、AOAOSAPPOROが準認定施設に登録されたとしてそこに対する支援で今お考えになっていることをご説明いただきました。何かご質問ご意見があればお願いいたします。

【有坂委員】

例えば準認定施設になったときに生物多様性保全をやっていることが、よくわかるようにしてもらえるといいのかなという観点から、今AOAOSAPPOROのホームページを見たんですけど、キタサンショウウオの保全に取り組んでいるということが全くわからない。「当館の取組」などの見出しにあるといいかなと。情報発信の仕方は大切だなと思いますが、ぱっと見て、何をやっているのか、これだとどこに今おっしゃった情報があるのかすぐにはわからない。円山動物園のホームページを見ると環境教育となっているのですぐわかる。情報発信の仕方もちよっとフォローしてもらえると良いのかなと思いました。

【石田推進係長】

認定事業部会の中でもご意見いただいていたところです。

そこはAOAOSAPPOROの担当にも伝えておりまして、キタサンショウウオについてはもう少し事業が進んでから、展示手法と絡めてホームページに掲載していきたいと聞いておりますのでもう少しお時間がかかるようです。

【吉中議長】

ありがとうございます。今ご説明のあったとおり、認定事業部会の方でも同じような議論が出ました。標茶町以外にも、札幌市内の川で調査をされているので、そういうことをもう少し広く発信していただけるといいのになんていう意見は、AOAOSAPPOROにも伝わっていますので、これから期待したいなと思っております。

【細矢委員】

ちょっと個人的な感想なんですけども、優良認定とか準認定とか、そういう区分になっているんですけども、例えば準認定と評定されたとして、感覚的に何か欠落しているんだろう、本当は認定したいんだけど、これが駄目なんで、「準」になりましたよ。そういう感じで私は受け止めてしまうのですけども、もちろん認定ってということに対してはかなりあるんですけど

その内容ですね。こういうことをちゃんとやっているから準認定なんですよというのもちっと広く、認知してもらう。ただ単に準認定施設とか書かれると、見る側からすれば、何か一つどこか足りないんだろうと、何か足りないから認定されないんだと私は受け止めてしまいます。だからその辺はもう少しこういうところはちゃんと準認定でプラスなんだよという、教宣とか広報っていうんでしょうか？そういうものがあってもいいのかなと。もし可能ならば、この「準」というのも外した方が利用者側から見たらすっと入れそうな感じがするんですけど。ちょっとマイナス的なイメージを持ってしまうような感じが私はします。

【吉中議長】

認定事業部会の方でも同じような議論を何回もやったんですけど、それで大きな考え方としては、まず何も認定されていないようなところは準認定を目指してほしい、準認定の後、ぜひ認定優良目指してこの名前の通りステップアップしてもらいたい。それに向けていろんな支援は円山動物園でもやっていきましょう、札幌市でもやってみましょうっていう趣旨だったと思うんですね。今おっしゃった通り準認定っていうのは、やはり何か足りないこと、これは確実なことで認定優良に向けてそれをぜひ克服してほしいっていう思いも込めてはいるところです。ただ、今おっしゃられたとおりそれがあまりにネガティブな印象を与えるっていうのもよくないですから、そういうふうに受け止める方がいらっやるとすれば、広報の仕方でも準認定と言ってもすごいんだよみたいなことを言っていただけるといいかなと。事務局なにかありましたらお願いします。

【石田推進係長】

吉中議長のおっしゃられるとおりで、認定動物園の制度は、札幌市動物園条例の中に規定がございまして、それに基づいて作られたものです。条例では「認定」動物園を規定していますので、認定動物園になるためにも、条件というか要件は何なのかということを認定事業部会の方で検討した上で、優良認定動物園と認定動物園という区分ができたものです。一方、要件を満たさないけれども制度趣旨である生物多様性保全に取り組んでいく、それを目的にしている施設であれば一緒に活動していきたいということで、認定動物園の要件に届いていない施設を準認定施設として位置付けて、吉中議長がおっしゃられるとおり支援をすることによってステップアップしていただく制度となっております。準認定施設に対しては、要件とされてないところはあるものの制度趣旨である保全活動を一緒にやっていく、そういう目的を持って一緒に施設を運営しているというところは変わりがないところなので、当園の方からしっかり発信していければと思います。

【細矢委員】

AOAOSAPPOROが今回準認定施設で、それをAOAOSAPPOROの立場になったときに準認定施設になりましたよというのをお客さんにアピールをして、それが集客に繋がるっていうことがAOAOSAPPOROとしては目的にしているのではないのかなって気がするんです。もちろん保全というのももちろん当然大事なことで、札幌市の円山動物園からそういう認定を受けました。それを看板として、ちゃんと保全活動をやって、認定されたんですよっていうのをお客さんにアピールをして、それを今後集客に結びつけるっていうのが目的だろうなとは思いますが。準認定がダメだとか言っているわけではなく、ただちょっとAOAOSAPPOROの立場からすれば認定してもらっているんだよっていうのを、全面に出

せるのであれば、その方が私はいいのかなと思います。お客さんを集めるということだけです。

【吉中議長】

どうもありがとうございます。

AOAOSAPPOROさんも認定を目指していろんな取組をされていると思います。準認定でどれぐらい集客効果があるのかはわかりませんが、今、事務局からご説明あった通り生物多様性の保全のためという目的がちゃんとあるんですよっていうのを、ぜひもっと積極的にPRしていただければと思っています。

【有坂委員】

今の話で、細矢さんのご意見はよく分かりつつ、ただやっぱり生物多様性保全にちゃんと取り組んでほしいなという気持ちがある、個人的にはあります。やっぱり欠けているのだと思います。なので、認定になればもっと広報しやすくなるということで頑張ってもらいたい。そういう意思を持ってらっしゃるということは全面に出して欲しいですし、認定になってよりPRしていただくことができる。動物園、水族館は、先ほどの博物館の話と同じですが、ただ楽しむための場所ではなくて、保全であるとか教育の部分がすごく重要な施設だということをもっと出していただきたい。SDGs、持続可能性への意識が高まる中、楽しいだけではなくいろんなことを考えられたり、できたりする施設が求められてきていると思います。そういう意味でそれでもちゃんと対応していますよ、もっとやっていきますよ、というのを出してもらえると、それこそ集客に繋がるのではないかなと思います。

AOAOSAPPOROさんやサケ科学館さんなど、まだ認定動物園になってないところには頑張ってもらいたいと思っています。

【吉中議長】

それでは今日予定されている最後の議題ですけれども、飼育動物の状況についてということで事務局からご説明をお願いいたします。

【佐竹係長】

資料5 転入・転出、繁殖、死亡動物についてということでご報告させていただきます。

前回会議のときに令和6年11月末までの動物の状況についてご報告させていただきましたので今回12月1日から今年の4月30日までについて報告させていただきます。

まず1番の転入動物の状況についてですけれども、12月にエゾヤチネズミ、エゾモモンガを石狩の防風林で捕獲、旭山動物園からの譲渡となっております。3月にエゾリスをのぼりべつクマ牧場より搬入しております。また4月に入りまして、ヒメトガリネズミ、ムスジカナヘビ、モーレンカンプオオカブトを野生生物生息域外保全センターから移管・寄附をいただいております。

転出動物についてですが、12月にモルモット雌1頭を旭山動物園に動物交換で移動、3月にエゾリス雄1頭をのぼりべつクマ牧場へ搬出してあります。

3番目の繁殖動物についてですが、この期間での繁殖はありませんでした。

4番目の死亡動物の状況ですけれどもこちらはちょっと長くなりますので一覧通りですが12月にモイロインコやフンボルトペンギン、1月にジムグリやマレーガビアル、2月にモルモッ

トやアメリカワシミミズク、エゾユキウサギ、3月にヒメトガリネズミ、ニホンザル、4月にシロマダラ、ジムグリ、ニホンザル、エゾユキウサギなどが死亡しております。

【吉中議長】

ありがとうございます。

資料5ですが何かご質問ありましたらお願いします。

【細矢委員】

転入で12月26日エゾモモンガ雄1 旭山動物園から無償譲渡とされているんですけど動物園からの移動っていうのは、有償とか無償とかそういう形になるんでしょうか。

【石橋飼育展示・診療担当課長】

動物園の動物の入手方法としては、昔は動物商さんから購入するということもありましたけれども、近年は他の動物園と交換という形で、こちらから何か動物を渡して、そこからもらうということもありますし、今回のような形で無償譲渡でやっていることもございます。基本的に動物に対してお金を我々が支払いをして購入をするというのは、ないかなというところでは。

【細矢委員】

ここは無償って書いてあるものだから有償もあるのかなと思いました。

【松原委員】

4番目の死亡動物についての下から2番目のムスジカナエビ 不明1と書いてありますが、不明というのはよくある事なんでしょうか。

【白水園長】

オスメス、性別が不明という意味ですね。

【松原委員】

わかりました。

【吉中議長】

これはオスメスが判明するっていうのはどういう感じなんでしょう。

【白水園長】

結構難しい話ですね。少し大きくなるまでわからないとか、4月11日に8件いるんですけど、まだサイズが大きくなっていく時期でもありますし、この種は雄と雌で色が違うというのもない種類のようなので、非常に雄雌見分けるのが難しい。様子見て、もう少し飼育してみてもしかしたら大きさとかで分かるかもしれない。

【河合委員】

転入動物のヒメトガリネズミの雄1となっていますけれど、生殖器が飛び出ているので外部

から見ると雄雌が分からないので、私の研究室ではDNAで雌雄判別できるように野生生物生息域外保全センターと円山動物園から毛を採取してDNAで性別判定できるように取り組んでいます。

【有坂委員】

いろんな連携が進んでいるってことですね、動物園と大学と。

【河合委員】

トガリネズミに関してはそうですね。

雌雄を生きたまま判別して、繁殖をさせて子供を産んで、というのを目指しています。

【有坂委員】

そういった連携が進むよう、話をずっと進めてきていますよね。

【吉中議長】

そうですね。ビジョンの中でも、連携は大事な柱というか、実施の手段として。

【有坂委員】

モーレンキャンプオオカブトを調べたらボルネオが生息地のようですが、やっぱりボルネオの森に展示されているのでしょうか？

は虫類館ではなく、一緒に展示した方がいいのだろうなと思い、確認でした。

【林委員】

札幌市にはこの動物園のステップアップ制度とかすごくいいのがたくさんあって、ここでちょっとお伺いするのは気が引けるんですけども、違法創業してきたノースサファリサッポロの動物たちのことがちょっと気になって、私自身は訪れたこともないんですけども、そこから要請とか支援をとかのやり取りは、ないんでしょうか。

【白水園長】

ノースサファリサッポロさんからは私ども円山動物園にはそういう相談はございません。

【林委員】

話しにくいですね、相談しにくいですね。

【白水園長】

相談しにくいかどうかは分かりませんが、動物愛護センターの方が立ち入りをしたり、相談に乗ったりしていると思います。特に円山動物園に直接ということはないです。

【吉中議長】

では一応議事は以上で、予定されていたものは全てです。

その他、全体を通して別のことで構いませんけれども何かご意見ご提案ご質問等ありましたらぜひお願いします。

【松原委員】

先に質問すればよかったんですけども、資料2の歳入歳出計画のところで2点知りたいことがあります。歳入の関係で入園料ということでこの金額の計上があって、備考欄に、先ほど何点か質問されましたけれども、動物園は教育施設ということですから小学生とか中学生が無料で入ってくる。実際に備考欄にあるR6実績が82万人と入園料の項目に入っているものですから、実際の部分では、有料のお客様が82万人ということで理解してよろしいでしょうか。

【伊藤経営係長】

こちら有料と無料とを合わせた数字となっています。

【松原委員】

もう一点が、歳入の関係で一番下の動物園整備費の関係で、大きな施設を作ったら、動物園基本計画事業費っていうのは、項目として起きていたと思うんですけども、7億も8億も計上となっているんですが、ないということは、新しい事業というか、そういったものないということで、項目が落ちているっていうことで理解してよろしいでしょうか？

【白水園長】

はい、そうです。

【有坂委員】

オオワシの放鳥などに関することです。個体数を増やしていくこと、怪我をした個体をこちらで預かって放鳥できるように取り組んでいますよね。何かがあって対応することももちろん大事ですけど、予防することも必要だと思っています。こちらで気候変動教育もやっていると思いますが、今、オオワシなどに関してはバードストライクだけではなく、ソーラーパネルの問題が釧路の方で大きく取り上げられています。怪我をしたり個体数が制限されるような状況にあるということを伝えるような取組を何かされているのでしょうか？

【石橋展示・診療担当課長】

昨年ですとオオワシに関してはシンポジウムを開催させていただいてバードストライクの話ですとか釧路の斎藤先生からの現地のお話など、そういったタイムリーな情報発信っていうところを努めてはいるけれども、その新しい情報が全て取り入れられているわけではないっていうところはありません。その部分はこれからも我々もアンテナをしっかりと張って出していけるようにしたいと思います。

【有坂委員】

予防の部分は大事だと思うので、問題が起きないように積極的な発信をしていただけるといいなと思いました。

【細矢委員】

動物福祉の日っていうのを7月25日に制定されていると思うんですけども、それに向け

ての何かイベントとか考えられているのかをお聞きしたいです。

【前野保全・教育推進課長】

動物福祉の日はウッチーが亡くなった日ということで、職員一同そのことを改めて思い返す日ということで設定しております。マレーグマのウッチーに対して黙とうを捧げる、職員の研修会というものを実施して、動物福祉を、動物の飼育の仕方を考える、原点に立ち返るという日でございます、それを続けています。

市民の方にイベントということではなくて、我々の気持ち、考え方を見直す。原点に立ち返るということで捉えており、追悼などを行っているところです。

【佐竹保全・教育担当係長】

動物福祉の日ですけれども、内部で動物福祉の取組をそれぞれ共有するということ行っており、それ以外に円山動物園による福祉の取組を紹介するということで、まだお知らせができていないんですけれども、インスタライブの方で周知をしていきたいということと、フォーラムという形で動物福祉について来園者へ考えを伝える機会というのを設けています。まだ周知できていないのでこれからお伝えしていきたいと思います。

【白水園長】

先日、北海道新聞さっぽろ10区が動物福祉の日について取材に来てくださいまして、7月25日に向けて記事を出していただけることになっています。

【細矢委員】

7月中旬くらいを予定しています。

【白水園長】

しっかり取組を書いていたいております。

【吉中議長】

ありがとうございます。

それでは以上で本年度第1回市民動物園会議を終了したいと思います。

皆さんどうもありがとうございました。

【前野保全・教育推進課長】

委員のみなさま、どうもありがとうございます。

吉中議長も会議の進行どうもありがとうございます。

次回の会議のご案内をさせていただきます。11月以降の予定で改めて日程調整をさせていただきますと思っています。

会場ですけれども動物園センターにつきましては改修工事を行っておりますので、園外での開催を予定しております。改めてご案内させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

本日はどうもありがとうございました。